

平成28年第5回  
上小阿仁村議会定例会  
会 議 録

平成28年12月13日（開会）

平成28年12月15日（閉会）

○議長（小林信） 次に、7番 武石辰久君の発言を許します。7番、武石辰久君。

○7番（武石辰久） 来年度の予算編成に向けて、現在までの主要な成果と課題解決方針及び主要施策について、村長に質問いたします。

今年度、村の総合計画が立てられ、施行実施されてきておりますが、農林基幹産業、地場産業の振興、雇用創出、若者、子ども、後継者の対策、定住移住対策等々、村の課題が山積してきております。

すでに、来年度予算編成作業に入っていると思いますが、小林村政の現在までの主な成果と、さらに村の創生にいかにか具体的な施策で取り組んでいくか。来年度予算に向けての主要方針と主要施策を伺います。

○議長（小林信） 答弁を許します。村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） まず最初に、成果につきましては、2年目でありますけれども、なかなか実績というのは現段階ではソフト事業等色々あるわけですが、まだ事業半ばというふうに私は思っております。ですから、今後の事業計画、執行によって形が見えてくるというふうに考えております。

新年度の予算作成に向けては、予算編成会議を開かせていただきまして、その中で説明をさせていただいております。簡単にご説明申し上げますと、先ほど言われたとおり総合計画に基づいて予算執行する、計画を立てるというふうになっております。

村の場合は、村全体が過疎地域に指定されておりますので、ご存知のとおり、過疎地域自立促進計画を総合計画というふうな形で読替えていくということがあります。ですから、これに基づきまして、村の施策を執行していきたいと、当面新年度予算につきましては、ほぼ3つの課題を、職員の方に申し上げております。

1つは健康づくりについて対応する。2、教育立村で、これまで発展してきた経緯がありますので、ここの部分について、てこ入れをする。3つ目として雇用の拡大を図りたいというふうなことでの予算を組んでいただきたいということでお話をさせていただいております。

とりあえず、現段階でのハード事業の大きなものについてだけ説明をさせていただきます。

先ほどからお話があるとおり集住型宿泊拠点施設の建設、社会資本整備総合交付金事業による道路とか橋りょう等の整備であります。それから、リサイクルセンターの建設、これは北秋田市の方に委託事業としてお願いしている部分であります。それから高能率生産団地路網整備事業、これは林道網の整備を負担金で対応していくということになります。その他、ハード事業については色々

あるのですけれども、大きなものとしては、これらを考えおります。

健康づくりにつきましては、行政の立場ではなくて、住民サイドの目線と議会での懸案事項について対応することで、人口減少速度を緩和し、少子高齢化対策にしたいということでもあります。

健康づくりにつながる事業の掘り起こしと見直しによって、病気の予防や健康寿命を延ばす政策としたいということでもあります。これによりまして、例えば、国保事業や介護保険事業の負担軽減を図り、結果的に村民の快適な生活につながってくるものと考えます。

教育立村としての発展を引き続き進めて生きたいということでもあります。これにつきましては教育・研修の推進に力を入れてまいりたい。

日々の幼児教育と学校教育を支援するとともに、中学生、高校生、社会人を対象にした海外研修や勉強したい人達を応援する施策を充実させてまいりたい。これは、これまでどおりであります。しかしながら、少しだけ手を加えながら一歩、二歩前に進めていきたいというふうに思っております。

また、農林業の研修やスポーツ合宿を支援することで、交流人口の増加と住民との交流や地場産品の販売促進のPRにつなげていきたい。

村には、先ほども申し上げましたとおり先人が苦勞して育ててくれた山林がありますので、これを利用して雇用の拡大につなげる施策を検討したい。これにつきましては、村有林2,000ヘクタールあるわけです。これについて、山の100年整備計画を作成させていただきたいと考えております。

例えば、村有林の杉林が1,500ヘクタールあります。これについて毎年15ヘクタールずつ植林をしていくことを100年続けるといった100年サイクルの100年生の杉の生産が可能になります。

事業収支によりまして、100年サイクルというふうにはいかないと思っております。例えば、50年生のもの、100年生のもの、30年生のものを、いろんなものを組み合わせながら、間伐、皆伐、植林、立木販売等も含めて、それから、バイオマスエネルギーの活用、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにかかる国立競技場の木材での建設が決まりましたので、それにかかる、いわゆる周辺施設等にも当然木材が使われるというふうなことを想定していますので、これについては、いわゆる森林認証材でないと使えないというふうなことがありますので、上小阿仁村の木材、そして秋田県も森林認証を取っておりますので、秋田県と力を合わせながら一緒にこれをPRしながら出荷をしていくと、使っていただくというふうなことの連携対応。それから、直交集成板CLTの需要促進のための公共事業を推進をしていく。これは現時点では単価が高くてどうしても普及は難しい状況にあります。

これは最初にどこがやるかということ、国、県、公共施設事業で最初にやらな

いといけない。そして補助事業等で推進をしていかないと、これは普及につながらないわけですので、これらについて国、県に一生懸命お話をしながら進めていただくようにするというふうなことであります。たまたま今回の県議会の一般質問の中で、いわゆるCLTについては、知事も一生懸命推進をするということを答弁しておりますので、ここら付近を国の方にも一生懸命話をしていくと、国会議員等にも先生方にも話をしていくというふうなことになります。

それから、山の問題については、植林をすると雇用が増えるというふうな内容になりますけれども、例えば、植林をすると翌年から数年間は下草刈りの作業が出ます。その後も除伐、間伐、皆伐の作業がありますので、毎年、膨大な作業量となります。この計画を実現するための調査、計画を新年度で検討してまいりたいと思っております。また、起業、起業者、事業拡大をする人達を応援するため、要綱の見直しを図り雇用拡大につなげたいというふうに思っております。

以上、予算編成方針の一部ではありますけれども、基本的には、バラマキではなくて将来の村、村民のために必要な施策を実現するための予算を、来年度を皮切りにスターとさせたい。当然、総合計画がありますので、それに基づいた計画、そして新たな資源の見直し、検討、掘り起こしを行うための調査、検討をさせていただきたいというふうなことであります。それを精査、検討しながら、来年度以降、これを着実に年次計画で事業を執行させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7番（武石辰久） 今、村長から主要施策ということで方針、施策を述べていただきましたけれども、やはり施策を実行していくためには、国、県等の主要施策をいち早く把握しながら、関係する事業等は村民の意見を取り入れながら、そういう補助、交付制度を施策に反映させていかなければならないと思いますので、そういった意味で、村長の方針を早く掲げてやっていくというのが必要だと思いますので、今後、具体的なものがまた予算編成の中で生まれてくるとは思いますけれども、それを、村民の要望を組み入れた施策になるように、ぜひ、頑張ってくださいと思います。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7番（武石辰久） 次に2点目の質問をいたします。

国の無形民俗文化財である村の伝統行事「万灯火」の存続と、体験交流、観光交流連携の支援について、村長に質問いたします。

「万灯火」は、各集落ごとに行われてきました。村にとっての大きな伝統行事であります。

平成17年2月21日に「阿仁地方の万灯火」として、国の選択無形民俗文化

財となっております。

全国的にも稀少な地域伝統行事でありますし、観光イベントとしても取り組まれてきております。しかしながら、年々集落の担い手不足が課題となっております。残念ながら辞めた集落もありますし、このままでは、今後やれなくなる集落も出てくると思います。

国の無形民俗文化財にもなっているわけですから、将来にわたって存続していくべき伝統行事として、今以上の支援体制と施策を講じていただきたいと思っております。

体験交流と観光交流としての取り組みであります。1つは、彼岸の中日の墓参りと併せ、村出身関係者、家族の帰省と万灯火行事への参加、手伝い等の呼びかけができないものでしょうか。

2つ目は、春休み等を活用した大学生の体験交流の呼びかけ募集であります。

一部集落で数年前から武蔵野大学生を個人希望参加の形で、前地域活性応援隊と村の協力を得て宿泊体験交流し大変喜ばれてきております。

総務省では、田舎暮らしの体験に憧れる若者を地方に呼び込み、農林水産業の人手不足の解消や地元の消費拡大、将来的な移住者の増加にもつなげる地方自治体助成制度の国内版ワーキングホリデーを、今年度補正と来年度予算に事業費計上しております。ぜひ、これらの制度も活用し施策支援を強化していただきたいと思っております。

3つ目は、体験観光を含めての国内外への発信であります。

観光客の来訪や滞在促進を目指して、エリアブランドを確立することを目的に、今年、地域連携DMO「秋田犬ツーリズム」に村が加入しており、ぜひ、大館市、北秋田市、小坂町、上小阿仁村の広域連携観光事業施策に盛り込み、万灯火を含めた観光旅行商品等を企画し、インターネットの「ウェブ予約システム」等で情報発信をしていただきたいと思っております。このような取り組みで村と集落と各団体の連携のもと、交流人口を増やし、村民の心に「あかり（灯）」を「とも（点）す」「万灯火」を存続強化していただきたいと思っておりますが、村長の考えを伺います。

○議長（小林信） 答弁を許します。村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 万灯火につきましては、先ほど議員から言われたとおり集落の子ども達が行う行事でありましたけれども、少子化によりまして担うべき子ども達が減少したことから、現在は、集落の方々が伝統を引き継いで実施しているというふうなことであります。

村では、未来づくりプログラムで提案されている体験メニューの具現化の検討をしております。

このメニューの中では、万灯火体験を組み込むことで、地域の伝統行事に参加していただき、年間を通じたリピータとなっただけのように誘導するものであります。

また、農業の6次化を活用した農家民宿を検討し交流を深めていただきたいと考えております。

農家民宿につきましては、林業の下草刈り、枝打ち、田植え、稲刈りや伝統料理教室体験等を考えております。他市町村では、農家民宿開設に係る経費の助成や改修費、宣伝費等の補助等がありますので、当村でも取り組まれる農家への支援策を、今後、検討してまいりたいと思っております。

帰省等、万灯火の作業等については、これは未来づくりプログラムの中で今後検討させていただきたいというふうに思います。

それから、春休みの大学生の活用というか、来ていただく分のお話であります。これにつきましては、先ほど言われたとおり武蔵野大学、秋田美術大学の学生がいろんな形で村と交流をしていただきまして、最近は個人的な対応の中で、万灯火とか、いろんな村の、若しくは集落に積極的に参加していただいているというふうな状況でありますので、そこら付近をもう少し充実した形で伸ばしていければ、もっともって各集落でも対応が増えてくるのではないかと、そして、来ていただける大学生も増えるのではないかと期待をしているところでもあります。

そういう意味では、きっかけとなりました上小阿仁プロジェクトについて、美術大学との連携協定を、今検討をさせていただいております。それと合わせて県とも、これまで以上の強化を図りますし、事業執行にあたり補助事業等の対応や、できれば地域住民との人的、経済的交流を深めていただいて、やはり経済効果がないと継続性がないというふうなことになるので、少しずつ経済効果あがるようなこと、そして人的交流によって、大学生等がリピータとして来ていただけるような対応を、今後また検討させていただきたいというふうに思います。

3つ目の体験観光の部分のDMOの方になります。これにつきましては途中から上小阿仁村が、大館、北秋田市、小坂町の方に入れていただいたという経緯がありますけれども、その後、大変な効果がありまして、DMOによるインバウンドが上小阿仁村にも、点から線につながってくるようなことになるように、今後努力するというふうなことになると思います。DMOに係るPR動画が、今、ユーチューブの中で流れています。アクセス数が100万回を超えているというふうなことで、大変な反響を得ている状況の中で台湾からも度々メール、それからフェイスブック等で、上小阿仁が出てきますというふうなことで連絡をいただいております。

そういう意味では台湾でのアクセス数が9割ということも聞いていますので、上小阿仁村の場合、台湾の萬巒郷と姉妹都市提携を結んでいるという状況の中で、今後、経済効果、台湾からの観光客の対応等が大変期待できるというふうなことで思っております。合わせて、知事も台湾には大変力を入れていただいておりますし、高雄との提携も、秋田県も考えて対応しておりますし、トップセールスというふうな形で毎回知事も台湾の方に行っています。たまたま、私も今回行かせていただきましたので、そういう意味では、いろんな形で、国内だけではなくて、とりあえずは今、台湾の方を含めてアクセス数が大変多いので、そういうものを、そういう方々について、秋田県に来ていただけるような施策を、このDMOの中で対応していきたいと思っておりますので、どうか、よろしく願い申し上げたいと思います。

○議長（小林信） 武石辰久君。

○7番（武石辰久） 今、村長からお話があったものを、ひとつ来年度の施策に具体的な形でやっていけるようなことを望むものでございますが、まず、1つ目に話した村の出身関係者の帰省も含めての呼びかけということでありませうけれども、もちろん、伝達方法として、広報もありますし、各地域のふるさと会を通じての呼びかけもしながら、ぜひ、万灯火を盛り上げて、参加していただければと思いますので、そういう方法もぜひ、考えていただきたいと思いません。

また、大学生の関係ですけれども、先ほど武蔵野大学生を例に挙げたわけですけれども、村長から回答があったように、1つの大学だけでなく、広範な大学生に呼びかけながら、やはり上小阿仁を体験していただいて、ぜひ、若い発想の力で盛り上げていければということでもあります。

それから、3つ目の秋田犬ツーリズムということで、ホームページがありますけれども、私が開いてみたところ、上小阿仁村は後で加入した関係があるかもしれませんが、上小阿仁のPR版は、私が見たところでは「コブ杉」だけしか載っていないような感じでありました。ぜひ、せつかくの情報発信の場がありますので、事務局にお願いして、上小阿仁村をもっともっとPRできるような、そういうメニューを取り込んでいただきたいと思いません。

その意味で、まず私は、「万灯火」を中心に主要な行事を、このような力を借りながら、ぜひ盛り上げていければと思って質問した次第ですので、今後の村の施策の予算化に期待を申し上げて、質問を終わります。

○議長（小林信） これで一般質問を終わります。